

TT Times 2016.3.11



もう5年、まだ5年 忘れてはいけない 絆



3月11日、東日本大震災から5年を迎えました。死者・行方不明者合わせて2万人という大災害の影響は、5年経ったいまも、重く被災地にのしかかっています。

5年間通い続けた気仙沼市の面瀬地区仮設住宅も、この春には自治会が解散すると聞いております。自治会を中心に住民の方々の輪が築かれていただけに、離れ離れになった後の住民の方々の心のケアが心配となります。復興と言っても、まだ土地が区画整理され、道路計画が整備され、かさ上げが行われている程度。本当の意味での復興にはまだまだ時間が必要なようです。物資面の支援はもう必要ないのかもしれませんが、被災者の方々の心のケアについては継続して多くの支援が必要だと思えます。阪神淡路大震災の被災者ケアは25年経った今でも続いておりま

す。是非、東北もこうありたいものです。まだ2千名以上の行方不明の方々がおります。一日も早い行方不明者の発見と、お亡くなりになられた方々のご供養を申し上げたいと思えます。

震災からもう5年、まだ5年。忘れてはいけない絆



目次:

季節の祭事 : しらす	1
生活の豆知識 : うな重の竹は気分選ばれる	1
特別コラム : 「3.11のドーナツ」	2
心の栄養をあなたに : 「モンロビア行きの列車」	3
生活の豆知識 : 理想のアルデンテに	4
食べ物コラム : 懐かしの冷凍ミカン	4
C級グルメ : サラミ焼き	4
あとがき	4

【季節の祭事: しらす】

3月中旬頃から徐々に解禁され、GWの頃に漁の最盛期を迎える「しらす」は、“春の訪れを告げる魚”として知られています。広義ではカタクチイワシやマイワシ、ウナギ、キビナゴなどの白い稚魚を総称した呼び名ですが、『しらす干し』や『ちりめんじゃこ』として食されているのは、主に体長2cmまでのイワシの稚魚。これが3~5cmになると、カタクチイワシの素干しを甘く煮詰めた『田作り』に使われる「かえりじゃこ」、それよりも大きくなると「イワシ」と呼ばれるようになります。しらすご飯、美味しいですよ！



生活の豆知識 : 「うな重の【竹】は気分選ばれている」

～ 日本でもアメリカでも“真ん中”は売れる！ ～

年に一回食べるか食べないかの『うな重』ですが、私は、ついつい「松」「竹」「梅」のうち真ん中の「竹」を選んでしまいます。皆さんはいかがですか？ うなぎ屋さんという場合は、多くの庶民にとっては「ハレ」の場ですよね。「夏だから精のつくものを」、「仕事うまくいったから自分にご褒美を」と、いったケースが考えられます。そういう場合は、せっかくなのに「梅」では少し惜しい気がしてしまいます。かといって「松」では勇気がいられますよね。結局、間を取って「竹」で・・・となるわけですが、こんな行動を「行動経済学」では【フレーミング効果】と呼ばれております。売り手側から見ると「竹」を売るための戦略となります。もし、「松」を売りたいければ「松」の上に「鶴」といった高額なメニューを新設すると、今度は「松」が売れるようになるそうです(もちろん竹も売れます)。この効果は日本人特有のものではなく、欧米人も同じような結果になるようです。世界的に有名なコーヒーチェーン店の「ショート」「トール」「グランデ」といったサイズ展開。これも同じように「トール」が一番売れているようです。確かに私もいつも「トール」を頼んでしまいます(笑)。ショートサイズに40円プラスすると、ショートの約1.5倍の「トール」が飲める設定になっています。コーヒーチェーンにとっては、もっともコストが多くなるのは人件費と家賃となります。かたや、「ショート」が「グランデ」になっても原料や人件費のコストはほとんど変わりません。だから、お店としては、お客が「トール」や「グランデ」を選びやすくしているとのこと。私たちは知らないうちに、「行動経済学」や「行動心理学」を使った企業側のマーケット戦略に乗せられてしまっているのですね。まっ、お得だから良いのか！？



特別編：東日本大震災「3.11のドーナツ」

3.11大震災の直後に、ミスタードーナツの本部に届いたメールを紹介させていただきます。宮城県・古川駅前ショップでの出来事です。

このたび、3月11日の東日本大震災においては、貴社におかれましても、一部店舗において被災していらっしゃるのではないかとお察しいたします。

被災された方々、および貴社ご家族、関係者の皆様には心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災地の早期復旧を心よりお祈り申し上げます。

さて、突然のメールにて大変申し訳ございません。また、連絡先が分からず、こちらからのご連絡をお許しください。

今回、3月11日の東北大震災にて宮城県大崎市古川に出張いたしました際に被災しました一人でございます。

日帰りにて出張を予定しておりましたが、突然の震災にて、宿泊先・食料の確保も大変困難な状況に陥りました。

途方に暮れておりました際に、ミスタードーナツ古川駅前様の前を通りかかりましたところ、店内にて店員様・恐らくアルバイトさんも含めた若い方々が一生懸命にドーナツを箱詰めされており、普段、購入させていただく通りの包装を行われておりました。店を覗き込んだ私たちに、皆さんが、

「震災でお怪我はございませんか？ 大変でしたね」と温かい言葉をかけていただき、包んだドーナツを手渡していただき、「残り物でたいへん申し訳ございませんが、召し上がってください」と丁寧に両手で渡していただきました。お支払をさせていただきたいと申し出ましたところ、「売り物ではございませんので、どうぞお納めください」と本当に暖かい言葉を頂戴しました。

地震直後ですので、大きな余震も度々起こる中で、本来ならば自分たちの安全の確保、ご家族、家の心配を優先するのが当然かと思いましたが、それよりも被災して困っている他人のほうの心配をいただいていることに大変感銘をうけ、また、途方にくれていた私たちに大きな力と勇気をいただきました。

まったく食べるものの調達の目処が立たなかったため、いただいたドーナツはその日の晩、翌朝と同行しておりました2名と避難所にておいしくいただきました。

本当に幸いなことに、その後めぐり合せた他の避難者の方々のご好意にてバスを借りていただき、避難所の多くの方々とバスにて3月13日に新潟へと移動し、同夜に奈良県の自宅まで帰り家族と再会をさせていただきました。

あの時、ミスタードーナツ古川駅前店の若い皆様とお会いしなれば、もっと心も折れており今もまだ避難所にて暮らしていたかもしれません。

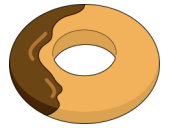
皆様とお会いしたことで、本当に勇気と力とドーナツ(食料)を頂戴したことが、私たちが一日も早く岐路につけたと本当に感謝しております。

本来であれば、お伺いして皆様に感謝とお礼を申し上げたいところですが、復興にはまだ少し時間がかかることかと思いません。一日も早く復興し、古川に行ける時が来れば、皆様に直接あらためてお礼を申し上げたいと思っていますが、取り急ぎ、いち早く無事に帰れたことのお礼を申し上げたく、また、スタッフの方々のなかにも大変な状況に置かれているかたもいらっしゃるれば、是非、このように皆様方の勇気と親切で助けられた者達がいることをこれからの復興において、自信を持ってがんばっていただきたいと思い、失礼かと思いましたが、メールさせていただきました次第です。

あらためて、被災地の早期復旧を心よりお祈り申し上げますと共に、私たちがまた、遠方より微力ながら復興に向けできる限りを尽くし、全力で頑張りたいと思います。

本当に本当にありがとうございました。

以上



心の栄養をあなたに：「モンロピア行きの列車」

戦後間もない頃、日本人の女子留学生が一人、アメリカのニューヨークに留学した。

戦争直後の、日本が負けばかりの頃なので、人種差別やいじめにもあった。

そして、とうとう栄養失調になってしまい、体にも異変を感じ、病院に行ったところ、重傷の肺結核だと言われた。

戦後まもないころ、肺結核は死の病と言われた。

思い余って医者に、どうしたらいいか聞いたところ、「モンロピアに行きなさい。そこには素晴らしい設備を持ったサナトリウム(療養所)があるから」と言われた。飛行機がまだ発達していない時代、ロサンゼルス近郊のモンロピアは、ニューヨークから特急列車で5日間もかかる距離だった。当時、汽車賃さえない彼女は、死ぬよりはましだと恥ずかしい思いをして、知人や留学生仲間に頼み込み、カンパしてもらって列車のお金を集めた。しかし食料までは手が回らず、3日分を集めるのがやっとだった。

治療費は、日本にいる両親が、家や田畑を売り払ってもなんとかするから、という言葉で証明書代わりに列車に乗った。

列車では、発熱と嘔吐が続き満腹に食事もできなかったが、それでも、とうとう3日目には食料が着てしまった。

そして、なげなしの最後に残ったお金を出し、車掌にジュースを頼んだ。ジュースを持ってきた車掌は、彼女の顔をのぞきこみ、「あなたは重病ですね」と言った。

彼女は、「結核となってしまう、モンロピアまで行く途中ですが、そこまで行けば、もしかしたら助かるかもしれない」ということを正直に話した。

車掌は、「ジュースを飲んで元気になりなさい。きっと助かる」とやさしい言葉をかけてくれた。

翌日の朝、車掌が「これは私からのプレゼントだ。飲んで食べて、早く元気になりなさい」と言って、ジュースとサンドイッチを持ってきてくれた。4日目の夕方、突然車内に放送が流れた。「乗客の皆さま、この列車には日本人の女子留学生が乗っています。

彼女は重病です。ワシントンの鉄道省に電報を打ち、会議してもらった結果、

この列車をモンロピアで臨時停車させなさいという指令がきました。

朝一番に止まるのは、終着駅のロサンゼルスではありません」

これは、現在で言えば新幹線を臨時停車させるくらい大変なことだ。

次の日の夜明け前に、モンロピアに臨時停車し、他の乗客に気づかれないように静かに駅に降りたところ、そこには車椅子を持った看護婦さん達が数人

待機してくれていた。

車椅子に乗せてもらい行こうとしたら、なぜか列車がざわざわしているので、振り返ってみてびっくりした。一等、二等はもとより、全ての列車の窓と言う窓が開き、アメリカ人の乗客が身を乗り出して口々に何か言っていた。

最初は、日本人である自分に何か嫌なことを言っているのかと思ったが、そうではなかった。

名刺や、住所や電話番号を書いた紙切れなどに、ドル紙幣をはさんだものが、まるで紙吹雪のように、投げられた。

「死んではいけない。きっと助かるから、安心なさい」「人の声が聞きたくなったら、私のところに電話をかけてきなさい」「手紙を書きなさい。寂しかったら、いつでもいいよ」と口々に声をかけてくれていたのだ。彼女は、4.5メートル先に停まっているはずの列車が涙で見えなかったという。

結局、3年間入院したが、その間、毎週毎週、見知らぬアメリカ人が見舞いに来てくれたが、これも列車の乗客だった。

そして、3年間の膨大な手術費と治療費を払って出ようとしたら、乗客の中の一人のお金持ちがすべて匿名でお金を払った後だった、という。

敗戦当時は、日本人がアメリカで生活するということは、今の私たちでは想像が出来ないくらいの「差別」があったのだと思います。その様な時代に、敵国

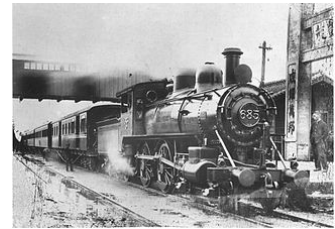
であり見ず知らずの日本人に対して、乗務員や多くの乗客が応援してくれたという事実に、

思わず感動しましたのでシェアさせて頂きました。

ちなみこれは、犬養毅元首相の孫で、評論家の犬養道子さんの若い頃の実話だそうです。

犬養道子さんは現在94歳。

この経験から、世界の難民救護の支援活動をされるようになり、現在も御活躍されているそうです。



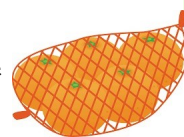
生活の豆知識：我が家のパスタ 理想のアルデンテに！！

イタリア料理での楽しみといえばパスタ。お店で食べる麺の仕上がりに感動しつつ自宅でトライするもなかなかプロのようにはいきませんよね。そこで、あらゆる料理本やインターネットを調べた結果、ある程度の答えが見つかりましたのでご紹介したいと思います。パスタの袋や料理本には、100g^㉔のパスタを茹でるには水1リットルにつき小さじ1(5g^㉔)の食塩をいれると書いてあります。実は、それでは塩が全く足りていないのだそうです！！では、どの程度の塩が必要かというとなんと6倍の30g^㉔となります。茹で汁を舐めてみるとかなりの塩気となります。パスタを茹でてみると、外側がほんのり白く、中心部にほのかに芯が残る理想的な状態になります。口にしても、イタリア料理店で食べる様なぶつぷりとした歯ごたえに感動します。ただし、しょっぱいのです！！この塩気を解消さえ出来たら理想のパスタになるのに…。そこで、ひと手間加えることで理想のパスタになります。そのひと手間こそが、「湯通し」となります。茹であがったパスタを別の鍋で沸かしていた熱湯(水だけ)に一瞬ぐらせることで、ほどよい塩気の理想的なパスタが茹で上がります。手間が増えることと塩を大量に使うので勿体ないと思われる方もいるかもしれませんが、プロ級の食感が得られるので、一度は騙されたと思って試して欲しいと思います。また、アルデンテとは真逆ではありますが、生パスタに似た食感を味わいたいなら、乾燥パスタを1時間ほど水に漬け、鍋で3分ほど茹でるとモチモチの生パスタのような食感となります。どうぞお試し下さいね。 ※感想をお待ちしております。お葉書返信くださいね！！



食べ物コラム：「なつかしの冷凍ミカン」

冷凍ミカン……。こう書いただけで「ああ、あれね」とか、「昔あったあった」とうなずく人は今何歳くらいの人でしょうか？さらに、冷凍ミカンを学校給食のメニューではなく、駅ホームのキオスクで購入し、列車の中で食べているイメージをされた方は私より先輩でいらっしゃるかと(笑)。40歳未満の方は想像がつかないかもしれませんが、特急列車や急行列車で食べる物の代名詞が「冷凍ミカン」だったのです。しかも、赤いネットに3つないし5つ縦に並んで入っていて、カチカチの冷凍ミカンの溶け具合を見計らって食べるという昭和の風物詩だったと思います。私の場合は、学校給食で食べるイメージが強く、給食センターから学校に運ばれ、給食のタイミングで7割位解凍されている絶妙の冷凍具合のミカンが大好物でした。今は、ミカン等のフルーツはあまり食べなくなりましたが、懐かしの冷凍ミカンであつたら是非食べてみたい気がします。またミカンと言えば左図の赤いネットに入って売られておりました。最近は見ないような気がしますが、この赤いネットを頭から被ったり、リンゴを作ったりしてよく遊んだものです。ちなみにミカンで一番好きなものは【缶詰ミカン】となります。一缶ぺろりといけます(笑)。



TT Times・編集室

～あとがき～

早いもので震災から丸5年が経ちました。3月にしては珍しく雪が舞った寒い日でした。あの時1歳だった息子も今年で小学2年生になります。もちろん震災の記憶はありません。6歳離れた長女は鮮明に記憶があると云います。地元の私達には鮮明に残る震災の記憶も、遠く離れた方々からは記憶が薄れ消えてしまっているのかもしれませんが、2万名以上もの犠牲者を出した大震災を忘れない為にも、毎年、3.11号は特別号として発行し続けたいと思います。改めて、犠牲になられた方々のご冥福と、行方不明者の一日も早い発見をお祈りしたいと思います。(土屋)

ソニー生命保険株式会社

仙台ライフプランナーセンター第2支社
ライフプランナー 土屋 敬
〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-2-3
仙台MTビル15階 TEL 022-296-5472
携帯 090-9538-2463
SL15-3630-0120



ホームページもご覧ください。
土屋 敬で検索！